

2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月12日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東
 コード番号 2330 URL <https://www.forside.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 根津 孝規
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 飯田 潔 TEL 03 (6262) 1056
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	1,053	7.6	△7	—	△11	—	5	—
2022年12月期第1四半期	979	△10.7	△53	—	△55	—	△64	—

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 5百万円 (—%) 2022年12月期第1四半期 △63百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	0.18	—
2022年12月期第1四半期	△1.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第1四半期	4,192	1,061	25.3	32.61
2022年12月期	4,249	1,055	24.8	32.44

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 1,061百万円 2022年12月期 1,055百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2. 2023年12月期の配当予想は今後の業績見通し等を踏まえて判断することにしていないため未定であります。

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,919	△1.4	145	—	139	—	133	—	4.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外3社（社名）フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社、株式会社マーベラスアーク、株式会社ホールワールドメディア

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期1Q	32,557,704株	2022年12月期	32,557,704株
② 期末自己株式数	2023年12月期1Q	19,554株	2022年12月期	19,284株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期1Q	32,538,327株	2022年12月期1Q	32,539,527株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げが決定する等、ウィズコロナの新たなフェーズへの移行が進められ、経済活動の正常化が進む中、景気は緩やかな持ち直しの動きがみられました。一方で、ウクライナ情勢の長期化に伴う資源価格の高騰や物価の上昇等が続いており、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズ事業を含むアミューズメント市場におきましては、行動制限の緩和により人流が回復し、来店者数は復調傾向にあります。一方で、原材料費や光熱費の高騰、人件費も上昇傾向にあること等、今後の不安材料も抱えております。

住宅市場におきましては、2023年3月の新設住宅着工戸数が前年同月比3.2%の減少となり、前年同月比で2ヶ月連続の減少となりました。また、新設住宅着工床面積においても、前年同月比で2ヶ月連続の減少となる等、引き続き注視が必要です。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・不動産関連事業を中心に事業収益の拡大を図ってまいりました。また、当第1四半期連結会計期間において、赤字の状態であった早期の業績の回復を見込めない、フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社、株式会社マーベラスアーク及び株式会社ホールワールドメディアの株式譲渡を完了する等、経営資源の選択と集中を進め、財務基盤の強化に努めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は1,053,925千円（前年同期比7.6%増）、営業損失は7,690千円（前年同期は営業損失53,414千円）、経常損失は11,261千円（前年同期は経常損失55,565千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,825千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失64,192千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

①プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用品品の企画・製作・販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、キャラクターグッズや雑貨系商材を中心に受注件数が好調に推移いたしました。また、輸送費や原材料費が高騰する中、一層のコストの低減に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は531,923千円（前年同期比10.4%増）、セグメント利益は36,590千円（前年同期比43.0%増）となりました。

②不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務等を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、顧客（不動産会社・賃貸人・賃借人）に寄り添った丁寧な対応に努めてまいりました。営業面においては、引き続き、新規取引店の獲得や既存取引先の再稼働等、営業強化・拡大に向けての取り組みにより、売上高は前年同期を上回る結果となりました。管理回収面においては、状況に応じた顧客管理に努め、与信審査及び債権管理業務の効率化に取り組んでまいりましたが、滞納者が増加したことに伴う貸倒引当金繰入額の増加に加えて、営業強化・拡大によるコスト増加等によりセグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は408,147千円（前年同期比25.7%増）、セグメント利益は18,109千円（前年同期比38.3%減）となりました。

③コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、電子書籍配信サイト「モビぶっく」において、広告宣伝費の抑制に努めながらも、費用対効果の高いプロモーション施策を継続することで、新規顧客の獲得に努めてまいりました。また、既存ユーザーに対しては、取扱い作品数の拡充やサイトのユーザビリティの向上を図ることで、顧客継続率を高めるための施策を行ってまいりました。一方で、2022年7月を以って、auスマートパス「アプリ取り放題」が終了したことに伴い、減収減益となっております。

以上の結果、売上高は18,895千円（前年同期比48.5%減）、セグメント損失は4,666千円（前年同期はセグメント利益3,154千円）となりました。

④イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、3月より「PSYCHOVISION hide MUSEUM Since 2000」を大阪で開催し、来場者数、物販ともに好調に推移いたしました。一方で、OEM物販の受注が減少したことに伴い、減収減益となっております。

以上の結果、売上高は38,222千円（前年同期比31.8%減）、セグメント損失は7,100千円（前年同期はセグメント利益878千円）となりました。

⑤マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、主にフォーサイドメディア株式会社及び株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、女子小中学生向け雑誌「Cuugal」の新イメージモデルにかんちゃん（カジサック（梶原雄太氏）の長女）を起用し、大きな反響をいただきました。「Popteen」においては、2023年3月号より、WEBマガジンへとリニューアルを行い、紙面販売の終了に伴い減収となりましたが、制作コストの一層の削減により損益は大幅に改善されました。また、2023年1月1日付で株式会社マーベラスアークの全所有株式を譲渡したことに伴い、赤字の状態でも早期の業績回復を見込めない音楽関連事業が連結除外されたことで、セグメント損失は大幅に縮小しております。

以上の結果、売上高は56,736千円（前年同期比29.0%減）、セグメント損失は80千円（前年同期はセグメント損失42,279千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①総資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて56,197千円減少し4,192,817千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の増加1,223,653千円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少267,996千円及び収納代行未収金の減少987,605千円等によるものであります。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて61,711千円減少し3,131,612千円となりました。主な要因といたしましては、支払手形及び買掛金の減少119,388千円等によるものであります。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて5,514千円増加し1,061,205千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純利益5,825千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の連結業績予想につきましては、「2022年12月期決算短信」における通期の業績予測から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	941,845	2,165,499
受取手形、売掛金及び契約資産	786,623	518,626
商品	313,982	248,981
短期貸付金	15,590	16,488
収納代行未収金	1,266,605	279,000
代位弁済立替金	409,096	486,544
その他	105,925	90,217
貸倒引当金	△356,649	△409,169
流動資産合計	3,483,020	3,396,187
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	89,136	95,520
土地	90,317	91,308
その他（純額）	9,958	19,278
有形固定資産合計	189,412	206,106
無形固定資産		
ソフトウェア	6,332	12,769
その他	6,194	6,502
無形固定資産合計	12,526	19,271
投資その他の資産		
投資有価証券	178,719	178,719
長期貸付金	361,330	307,912
敷金	41,448	61,232
長期未収入金	42,187	7,187
その他	16,069	23,632
貸倒引当金	△75,700	△7,432
投資その他の資産合計	564,055	571,251
固定資産合計	765,994	796,630
資産合計	4,249,015	4,192,817

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	232,991	113,602
未払金	1,331,982	1,307,937
未払法人税等	6,543	9,148
前受収益	462,819	531,189
短期借入金	204,000	201,700
1年内返済予定の長期借入金	90,210	96,072
債務保証損失引当金	79,780	81,600
賞与引当金	—	9,000
その他	344,220	297,293
流動負債合計	2,752,548	2,647,544
固定負債		
長期借入金	418,792	469,054
利息返還損失引当金	6,630	—
その他	15,353	15,014
固定負債合計	440,776	484,068
負債合計	3,193,324	3,131,612
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	86,193	86,193
利益剰余金	871,814	877,639
自己株式	△3,788	△3,807
株主資本合計	1,054,219	1,060,025
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,471	1,179
その他の包括利益累計額合計	1,471	1,179
純資産合計	1,055,690	1,061,205
負債純資産合計	4,249,015	4,192,817

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
営業収益		
売上高	654,669	645,778
その他の営業収益	324,945	408,147
営業収益合計	979,615	1,053,925
営業原価		
売上原価	492,697	476,401
その他の原価	83,325	126,076
営業原価合計	576,023	602,478
売上総利益	403,592	451,447
販売費及び一般管理費	457,006	459,138
営業損失(△)	△53,414	△7,690
営業外収益		
受取利息	2,046	1,836
為替差益	58	35
その他	415	97
営業外収益合計	2,521	1,969
営業外費用		
支払利息	3,768	4,078
貸倒引当金繰入額	844	5
その他	60	1,455
営業外費用合計	4,672	5,540
経常損失(△)	△55,565	△11,261
特別利益		
関係会社株式売却益	—	25,640
特別利益合計	—	25,640
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△55,565	14,378
法人税、住民税及び事業税	9,043	8,552
法人税等合計	9,043	8,552
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△64,608	5,825
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△415	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△64,192	5,825

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△64,608	5,825
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	621	—
為替換算調整勘定	451	△292
その他の包括利益合計	1,072	△292
四半期包括利益	△63,535	5,533
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△63,119	5,533
非支配株主に係る四半期包括利益	△415	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従っております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス
売上高						
顧客との契約から生じる収益	481,953	305,125	—	36,712	56,043	79,960
その他の収益(注)4	—	19,688	—	—	—	—
外部顧客への売上高	481,953	324,814	—	36,712	56,043	79,960
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	481,953	324,814	—	36,712	56,043	79,960
セグメント利益又はセグメント損失(△)	25,583	29,374	△33,145	3,154	878	△42,279

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	131	959,926	—	959,926
その他の収益(注)4	—	19,688	—	19,688
外部顧客への売上高	131	979,615	—	979,615
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	131	979,615	—	979,615
セグメント利益又はセグメント損失(△)	53	△16,379	△37,034	△53,414

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△37,034千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				
	プライズ	不動産関連	コンテンツ	イベント	マスターライセンス
売上高					
顧客との契約から生じる収益	531,923	386,780	18,895	38,222	56,736
その他の収益(注)3	—	21,366	—	—	—
外部顧客への売上高	531,923	408,147	18,895	38,222	56,736
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	531,923	408,147	18,895	38,222	56,736
セグメント利益又はセグメント損失(△)	36,590	18,109	△4,666	△7,100	△80

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高			
顧客との契約から生じる収益	1,032,559	—	1,032,559
その他の収益(注)3	21,366	—	21,366
外部顧客への売上高	1,053,925	—	1,053,925
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,053,925	—	1,053,925
セグメント利益又はセグメント損失(△)	42,852	△50,543	△7,690

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△50,543千円は、各報告セグメントに配分していない
 全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(「投資銀行事業」及び「その他の事業」の廃止)

「投資銀行事業」及び「その他の事業」については、2023年1月1日付で、当社の連結子会社で両事業を行っていたフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社の全株式を売却したことから、当第1四半期連結会計期間より両事業の報告セグメントを廃止しております。これにより、当社グループの報告セグメントを「プライズ事業」、「不動産関連事業」、「コンテンツ事業」「イベント事業」及び「マスターライセンス事業」の5区分としております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。